

## 床屋さんは結露の温床 美容室を高断熱高気密で建築



9.7青森支部の(有)松田工務店(松田隆幸0176-23-5071)が今美容室を新在来で建築中(左写真)。この現場をみて5～6年前の出来事を思い出した。場所は岩手県北上市、「結露が激しいのでみて欲しい」市民住宅セミナーの会場で、そう話す若夫婦がいた。普段生活している場所とは離れた部屋も、その上の天井裏にもおびただしい結露が(表面結露)があるというのだ。現地へ行ってみると、これが理容室を営む店舗付き住宅だった。原因は洗髪に使う大量のお湯からでる湿気だろうとは誰でも容易に察しがつく。「でも、店と住まいはドアで仕切られているのだから住宅の方まで結露するのはおかしくないか」とも言う。

ここである言葉を思い出す。「水は方円の器に従う(水は丸でも四角でも器のかたちによって平らになる)。湿気も水と同じ。絶対湿度が同じになる性質を持つ。水より尚悪いことに、紙でも木でもどんな隙間でも、水が透らないモノにでも湿気は入り込んでしまう。」つまりドア一枚どころかあちこちの隙間から湿気は湿度の低い(絶対湿度)ところを求めて家中を駆け巡っているのだ。一方、店内では客待ちの暖房で暖かくしているところへ文字通り湯水のごとく水蒸気を散出しているわけだから断熱の悪い住まいはジメジメ結露は当然。

**理容室・美容室こそ高断熱高気密にして換気をしなければならない最たる建物**だと前々から思っている。環境がよくなるばかりか、結露は解消し、建物の寿命、利用機器の管理も大幅に改善されるだろう。そして、何よりも一日中暖房している店の光熱費が大幅に減少するはず。

焼き肉屋(チェーン店ではない)の換気を上手に配したら客足が増えたという米沢(米住建設)の話もその通りだなと思うが、小さな診療所の待合室も何とかして欲しいね。風邪をひいて病院に来たのに逆に悪化してしまうような所もあるよね。

## 老後を二人で静かに暮らしたい、人生の大人は家づくりも大人



青森支部(有)誠建ホーム(金淵誠 0176-57-4301)さんが建築中のK邸。まもなく70になろうとする老夫婦が住む家。Kさんは「リプラン09年号を見てこんな家にしたい」と思い立って建築を決意されたとのこと。Hご主人「妻には長生きしてもらってもし万が一自分に何かあっても妻が穏やかに暮らせるように」ですって。そういう家づくりもあるんですね。

最近、老夫婦二人が、高断熱の家で穏やかに暮らしたいという話をよく聞くようになりました。事務局に問い合わせが時々あります。団塊の世代よりももう少し上だと思いますが、明らかに社会の変化を感じます。

ところで、リプランの「Q1. 0住宅エコ」発売と同時に事務局へこんな問い合わせが数件ありました。「こんな考え方で家を建ててくれる工務店を紹介して欲しい」。これはすごいことです。今までは外断熱で建てて欲しい、何々工法で建てたい、さしずめそんな話です。「Q1. 0住宅エコ」には工法の話は出て来ません。

もし、「こういう考え方で家を建てる業者」を選ぶユーザーが増えて来るとしたら、それはユーザー自身が大人に成熟してゆく証と言えるのではないのでしょうか。高断熱住宅業界ではユーザーにも業者にも未成熟さを感じるのには私ばかりではないでしょう。(業者が問題だ)と思うが)

この家、北欧の老夫婦が今にも玄関に現れそうな大人の雰囲気を感じます。

Kさんに会ったから余計にそう思うのかも知れません。